

交流・文化施設等整備検討委員会 第12回委員会

会 議 次 第

日 時：平成21年7月8日（水）
午前10時～12時（予定）まで
場 所：上田中央消防署3階会議室

1 開 会

2 委嘱式

3 委員長あいさつ

4 専門委員紹介

5 議 事

- (1) 各委員からの意見発表
- (2) 最終報告に向けての課題等の整理について
- (3) その他

資料1

6 閉 会

配布資料

資料1 最終報告に向けての課題等の整理について

(ページ左側) 中間報告の内容

はじめに

今の子どもたちのために、そして未来の子どもたちのために、今、私たちがしてあげられること...子どもたちの健やかな成長と、豊かな心を育てたい。

文化は、すぐに育つものでなく生活の中で生まれ、脈々と育ってきたものであり、生活そのものでもあります。

私たちが日ごろ楽しみ、心を動かされるなどの恩恵を受けております文化についても、祖先が種を蒔き、水をやり、受け継がれてきたものであります。

こうした文化の継承と新たな創造は、それぞれの世代の使命といえます。

まさに、交流・文化施設の建設につきましては、現代に生きるものだけでなく、将来の子孫のための仕事であるということを意識し、歴史ある上田の文化振興・文化力を高める拠点として、子どもたちのためにも役立てていけるよう前向きに取り組むべきであると考えます。

まちの中心部に文化的機能による賑わいと交流をもたらし、まちを、地域を元気にしたい...文化力から人間力、そして地域力へ。

JT開発地は、「広域から人が集まる新たな拠点として、賑わいの創出や健全な市街地形成を目指し、上田市全体の発展につながる新たな中心市街地の活力づくりの核とする」方針で全体利活用が進められており、市でも「当初から財政状況も踏まえ、民間の資本やノウハウを最大限活用した新しいまちづくりへのアプローチとして、民間との協働により活力ある中心市街地の一角を形成すべきと判断し取組んできた」とお聞きしました。

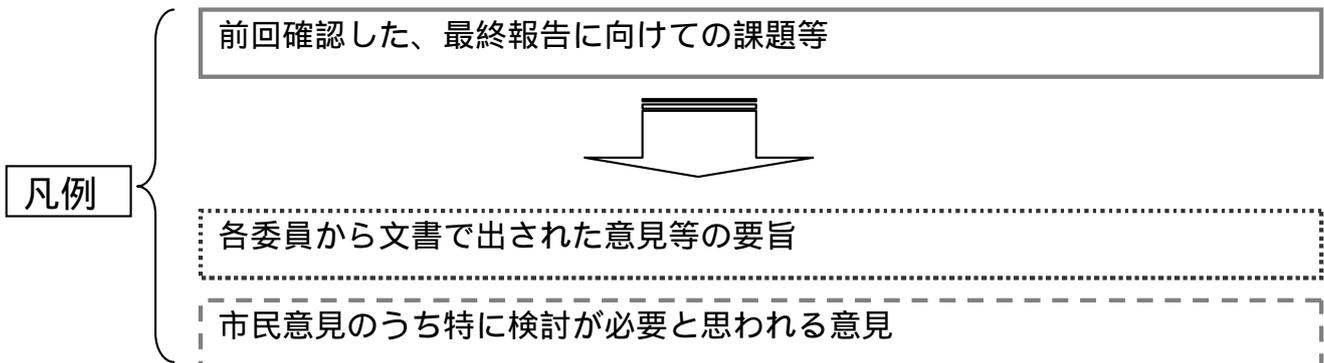
私たちは、JT開発地の新たな利活用が、上田市の顔でもある中心市街地にもう一度人々を呼び戻し、誰もが集まるような、賑わいや活力を取り戻すチャンスがめぐってきたと捉えます。

隣接地には多くの人々が住む住宅地や、広域から大勢の人が訪れるであろう大型商業施設ができます。ここに「多目的ホール」「美術館」「交流施設」などを一体的に考えた総合的な文化力を持つ施設を整備し、JT開発地全体での一体性、総合性を発揮させる複合的都市計画を目指して、人々や賑わいをこの地区内だけに留まらせず、中心市街地全体、そして上田市全体の活力をもたらすところまで利用すべきであると考えます。

現在、世界規模で経済危機、雇用不安が急速に広がり、明日の生活も不透明な状況にあることは事実です。しかしこんな状況の今だからこそ、公共投資が必要であります。また30年、50年先の明るい未来「文化の薫りが漂い、人々の活気と賑わいに満ち溢れているまち」の実現を目指して、施設整備に取り組むべきと考えます。

課題等の整理について

(ページ右側) 市民意見の内容と今後の課題等

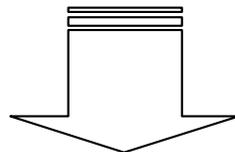


中間報告の内容に対しては、全体的に肯定的な意見が多かった。

最終報告のまとめにあたって

- ・ 「 理念と目標」...表現の見直し、具体的事例の追加検討など
- ・ 「 整備方針」...具体的意見を踏まえ、施設の概要・面積・配置等を明確にする
- ・ 「 運営管理」...意見等を踏まえ、運営管理の方向性を更に検討する
- ・ 「 建設にあたって」...各施設役割分担と整備事業費の精査

これらを集約したモデルプラン及びイメージパースの作成



【中間報告の全体についての意見】

- ・ 美辞麗句が多く具体的でない。(公)
- ・ 中間報告は感動がない。市民が感動せず、参加したいと思わなければ施設は失敗する。(パ)
- ・ 無難にまとまりすぎていて魅力を感じない。中央公民館のような生涯学習を延長しただけの施設、多目的で複合的な施設になりそうで気になる。(パ)

理念と目標

1 基本理念と目標

『人にやさしい 交流の輪が広がる 創造都市うえだ』

の実現を交流・文化施設の基本理念と位置づけ、文化芸術のシンボル拠点として新たな『育成』『鑑賞』『創作』『交流』等の活動が行われ、人が、まちが、豊かに育まれる新上田市を目指すことが重要と考えます。

「人にやさしい」とは、多様な価値観を認め合い、分かち合うことで心の豊かさ・やさしさを育てる、まさに教育面や福祉面にも広がる理念として表現しています。

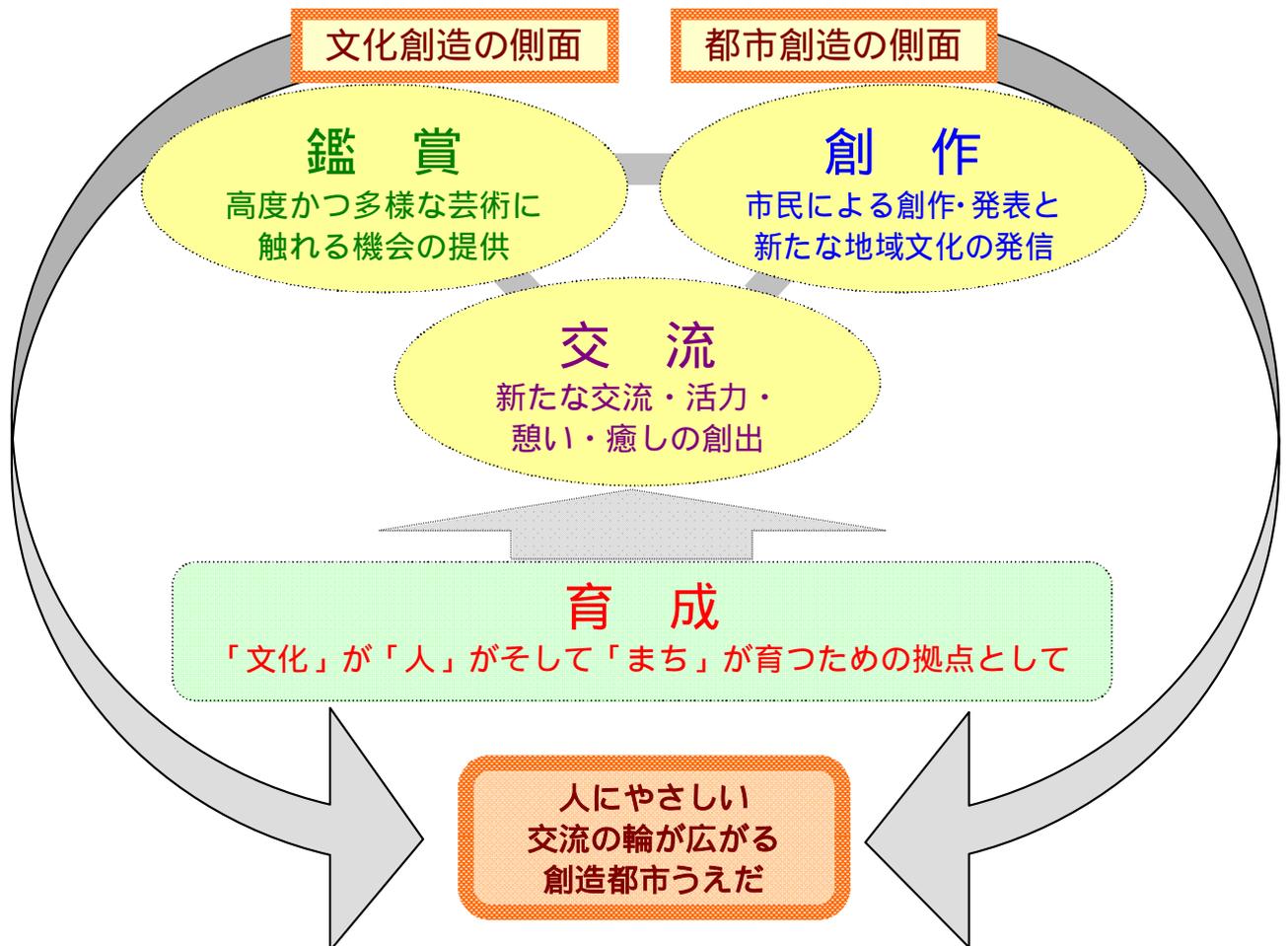
また、基本理念の根底にあるべきものは『育成』であります。

人々の生活とともに悠久の時を経て脈々と流れる「文化」、それが表現された「芸術」、これらが育つことはすなわち「人」が育つということでもあります。とくに次世代を担う子どもたちを、良質な文化的な生活環境の中で心身ともに健やかに育てていく、これは今の私たちが真剣に取り組まなければならないことであると考えます。

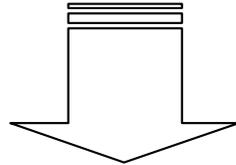
そして、「人」が育つということは「まち」が育つことへとつながります。

こうした育成の取組みが、市民による歴史ある地域文化を継承することと同時に、新たな文化を創造し、醸成された地域文化を形成するとともに、まちの賑わいや活力を生み出す拠点として、広範な地域から人々が集い・憩い・交流する場となり、魅力溢れるまちづくりへの架け橋となるものと考えております。

図1 【交流・文化施設が果たす役割のイメージ】



表現、文言の修正等
役割のイメージの確認



委員からの意見

「文化創造の側面」と「都市創造の側面」を根底の二つの柱とし、「鑑賞」「創作」の拠点に置ける「育成」と「交流」を目指すという位置づけにするべき。

- ・ 「文化創造の側面」＝「育成」、「都市創造の側面」＝「交流」と捉えると、それぞれにより明確な方向性が打ち出せるのではないか
- ・ 「若い世代を育てる」こと「地域の人々が集い交流する」こと「広範囲から人が集い交流する」ことは、それぞれ独立した必要性があるのであって、「育成」を根底理念に置くのは、費用対効果を検証する際の逃げ道になりかねないと考える。

委員からの意見

ここに来たら、いたらゆったりと豊かな気持ちでいられる...という施設でありたい。そして、使わずに古くなるのではなく、使って「風格」が出るものにしたい。

愛知芸術文化センター(H4 10開館、国内初の大型複合文化施設)理念等参考になる。

- ・ 「アートが生活の一部になったら、どんなに素敵だろう。」
- ・ 「ワクワクしたり、感動したり、文化はきっと人のこころが育てるもの。」
- ・ 「人々が昔、大きな樹の下で語りあったように、新しい風は、都市公園につづくこの明るい屋根の下に吹いています。」
- ・ 美術館、芸術劇場、文化情報センター、図書館の4つの施設がお互いに連携し、ひとつになって、芸術文化の情報を発信していく

【市民意見】

- ・ 理想は市外の人も行ってみたくなる様な上田市の未来を拓く、魅力的な文化施設を整備して欲しい。上田市のシンボルとなり人の流れがここを核にできるような施設となるよう、基本理念も「育成」「ひとにやさしい」などではなく「夢乗せ 交流はぐくむ 文化創造都市うえだ」といった表現はどうか。(パ)

2 文化創造と都市創造

育成 ~文化の薫り高く、魅力と風格あるまちづくりに向けた 人づくり~
 芸術文化をとおして魅力あるまちづくりを行うためには、次代を担う子ども達を対象にした育成事業に取り組む必要があります。

さらに、文化的土壌の成熟に努め、芸術に親しむ鑑賞者・創作者としての市民、またそれを支える運営者や活動家を育成することも大切であります。

こうした取組みが、市民による歴史ある地域文化を継承することと同時に、新たな文化を創造し、醸成された地域文化を形成していくものと考えます。

【主な事業展開の例】

子どもを育てる文化的環境づくり	未就学児から高校生までが集う演奏会や各種芸術講座、絵画・木彫りのアート教室など、自らが演奏を行ったり作品を制作することを通して、次代を担う子どもたちが芸術や創作に親しむ環境を整える。
各種講座による鑑賞者の育成	クラシックコンサートなどの公演や質の高い美術作品の鑑賞、また参加・体験型の講座の開催等を通じ、市民の芸術鑑賞に対する意識や文化レベルを熟成し、魅力と風格あるまちづくりに努める。
市民とともにある施設づくり	文化活動等のもとより、運営・管理にも多くの市民が積極的にかかわれる環境を整え、市民とともに歩み・育てる施設を目指す。
地域の伝統を生かした創作活動	地域に息づく文化芸術的土壌や郷土作家の顕彰等を通じ、地域文化の継承と新たな文化の創造に努める。

鑑賞 ~芸術とのふれあいから感動が生まれ 豊かな心が育まれます~

広く市内外から人々が集い、音楽や美術作品とのふれあいで心が癒され、わくわくするような感動を提供する施設が望まれています。

また、こうした芸術文化とのふれあいから豊かな心が育まれ、毎日の生活に活気と潤いを与え、魅力あるまち実現へと繋がります。

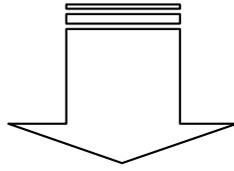
こうしたことから、施設全体として多様で質の高い芸術に対応できる空間を用意し、市民が様々な芸術文化と触れ合える機会を提供するとともに、市民自らが、様々な形で発表できる場を提供することが必要と考えます。

さらには、郷土の著名な芸術家を顕彰し、市内外に向け積極的に上田の魅力としてアピールすることも大切と考えます。

【主な事業展開の例】

自主文化事業	市民が望む様々なジャンルの芸術鑑賞事業の実施。
貸し館事業	興行等民間利用にも積極的に貸出し、市民の鑑賞機会や財政面での収入を増やし、財政負担の軽減を図る。
市民発表の場	市民が行う文化芸術活動の発表・鑑賞の場（晴れの舞台）を提供。
郷土作家の顕彰	山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタ、中村直人等郷土作家の顕彰・鑑賞と、その思想を生かした新たな事業展開。 また貴重な作品を将来に伝えるため作品の保管にも努める。

表現、文言の修正等
主な事業展開例の追加表記等



委員からの意見

「若い世代の育成」と「地域文化育成」に分けるべきではないか。

【市民意見】

- ・ 文化基金を設け、市民音楽祭を開催し、文化力を向上させるべき。(公)
- ・ 勤労青少年ホーム、博物館協議会、地域協議会などと連携する必要がある。(パ)

委員からの意見

「質の高さ」とともにアミューズメント的な「楽しさ」の視点を意識すべき。
特に、美術館の常設展示は、単なる「資料館」にしてしまえば人は集まらない。
「市民の発表の場」に関しては、ホール以外の展示スペースについて、隣接する「アリオ」や既存施設との役割分担も考慮すべき。

【市民意見】

- ・ 寄付によるコンサート等を考える。なお、寄付金は市民税の控除対象とする。(公)
- ・ 飯田の音楽祭や松本のSKFのような特色のある事業が必要。(公)
- ・ 子どもたちが本物に触れることが大切。(公)
- ・ 山本県記念館の活動は大切に残すべき。(紙)

創作 ~誰もが・等しく・自由に 感動や喜びを広げる創作体験~

より多くの市民が音楽・美術等様々な文化芸術に親しみ、一人ひとりの生活を豊かなものにしていただけるよう、創作・体験機会の創出、環境づくりに努めるとともに、市民の様々な文化芸術活動を支え、対応できる施設整備が望まれています。

とくに子どもたちや障がいをお持ちの方も、誰もが等しく文化芸術活動に親しみ、表現・発表できるよう、施設・運営両面から積極的に対応する必要がありますと考えます。

【主な事業展開の例】

誰もが・等しく・自由に、創作活動支援	とくに障がい者や子どもたちが芸術活動に親しむ場・仕組みづくりを進め、地域での芸術を通じた関わりの機会を提供するとともに、芸術と福祉の融合、ひいては市民全般にわたる芸術活動を支援する。
魅力ある企画展や市民体験型事業の開催	郷土作家に関連したテーマ、キーワードを設定した企画展示や現代作家による企画展示等の開催、また展示と併せたワークショップ、各種体験・参加型事業などにより市民の創作意欲や創造性を高める。
全国に広げるコンクール	山本鼎版画大賞展などの全国公募展の開催や、新たな全国規模コンクールの実施により、上田市の文化・風土を発信し、新たな地域振興や観光などと連携した波及効果を広げる。

交流 ~様々な交流により 新たな出会いと創造が始まります~

市民同士の出会いからジャンルを越えた交流、そして国際的な交流にいたるまで、様々な交流を深めていくなかで、地域文化は育まれます。このため、外国籍市民を含むすべての市民それぞれがお互いを尊重し、同時に相互に啓発し合いながら、それぞれの活動を高めていくことができる機会と空間を提供する必要があります。

また交流は、まちづくりや地域活力の面でも重要な要素であるため、こうした角度からも地域内外との積極的な交流を目指して取り組むべきと考えます。

【主な事業展開の例】

市民の多様な交流の実現	世代・地域・ジャンル等を越えた様々な交流により相互の理解を深め、新たな文化創造や地域づくり、産業振興等に向けた契機にする。
市民憩いの場の創出	広場と合わせ、誰もが気軽に訪れ、楽しみ、憩えるような施設とし、ふれあいや語らいの場など自由な交流機会を広げる。
コンベンションの利用促進	各種会議・大会などのコンベンション利用にも対応することにより、文化面だけでなく、社会・経済面等への波及効果も期待できる。
大学等での芸術活動支援	大学等の芸術活動における利用、発表の機会を提供することなどにより子どもや市民との交流を促し、地域の文化的土壌を醸成する。
地域の文化芸術振興の拠点	普段訪れることのできない市民への出張公演や出前講座等の活動により、誰にでも心のやすらぎや楽しいひとときの場を提供する。

委員からの意見

既存施設以外に、コストをかけて「障がい者や子どもたち」のための施設を建設する必要があるのかは、検証を要する。

同様に、地域内の文化活動拠点は、必ずしも新たに造るべきなのかどうか、慎重に検討すべき。現在も中央公民館やサンテラスホール、音楽村、各公民館や中心市街地のスペースを活用して、活発な活動が行われていると思う。

日頃不足していると感じるのは、文化団体間の交流や共同の創作活動。この部分には、コーディネートする能力の高いスタッフが必要。

【市民意見】

- ・ 子どもたちがワークショップなど創作・体験・発表できる施設にすべき。(公)
- ・ 「創作」には、小説や文芸を含めるのかの検討が必要。(パ)

委員からの意見

「交流」は「地域内交流」と「都市間交流」とに分けて議論する必要がある。地域内交流の議論にとどまっておき、まちづくりの視点が抜け落ちていると言わざるを得ない。

他地域からの流入を増やすことが、まちづくりに置ける「交流拠点」の概念であり、「コンベンション」「全国規模の大会」などの方策が、鍵を握ると思う。この視点でのコンセプトを追加すべき。

【市民意見】

- ・ 観光、コンベンション等外部からの流入も重要。(紙)
- ・ 子どもを育てることは大事だが、子どもは市外に出て行ってしまう。外部から人が来てもらうために観光コンベンションといった視点も必要。(公)
- ・ イベント業者やマスコミの活用・連携が必要。また高齢者福祉施設との交流も検討すべき。(パ)

交流・文化施設の整備方針

1 施設整備の方向性

整備にあたっての方向性としては、次の5項目を提案します。

- (1) 「歴史や伝統に学ぶ文化の薫るまち」実現に向けての中核となる施設
豊かな自然や風土によって育まれる地域文化と、先人の築いた歴史的・文化的遺産を保存・発信する、文化の薫るまちづくりの拠点となる。
- (2) 市民誰もが等しく気軽に利用でき、親しみ、憩える施設
子どもからお年寄り、また、障がい者など、市民誰もが訪れる緑地や広場、また芸術に気軽に触れられる空間を創出し、心が癒され豊かになる。
- (3) 新たな交流や賑わいを創出し、地域の活性化につながる施設
市民間、世代間、地域間での交流はもとより、文化芸術が教育や福祉と連携することで新たな交流や賑わいを創出し、地域全体の活性化につながる。
- (4) 環境、景観、安全等に配慮した、人にも地球にも優しい施設
効率的な資源利用、太陽光発電等による省エネルギー、上田の景観を引き立たせるデザイン、災害時の対応等安全性にも配慮し、人にも地球にも優しい。
- (5) 新上田市、東信濃地域に広がる文化圏のシンボルとなる施設
様々な文化芸術事業と、市民の文化芸術活動支援を行うことで、市民が誇りに思い、愛され、上田市のみならず東信濃地域全域から人々が集まる。

交流・文化施設の整備地区は、『多目的ホール(大・小)』、『美術館』、『交流施設』、『市民緑地・広場』をもって構成されますが、これらを一体的、総合的にとらえ、施設全体を連携させた配置とし、複合的な機能をもたせることが肝要と考えます。これにより相乗効果を生み、全国にも発信できる施設とすることが出来ると考えます。

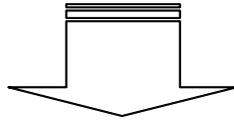
また、JT 開発地内の大型商業施設などや周辺地区との人の流れ、まちのつながりを総合的に計画していく必要があります。そして中心市街地全体も含めた広い視野に立ち、回遊性確保を図っていく必要があります。

そのためには、人々が車から降りて歩いてみたくなるようなまちづくりの設計や誘導策が不可欠であります。快適で安全な歩行空間の整備や、公共交通機関の導入など、今後検討していく必要があります。

こうしたまちを実現するには、周辺地区も含め総合的にとらえ、全体を見通した優れたデザインが鍵となります。利用者や使用者に配慮したユニバーサルデザイン^{注)}に基づく設計、シンプルで機能的なデザインを基本としながらも、文化施設には非日常的な空間の演出、ドラマチックな展開や感動を予感させる演出をもたらずデザインも重要であると考えます。誰もが訪れてみたくなる施設となるよう、デザイン面の格別の配慮を実現すべきと考えます。

注)ユニバーサルデザイン...バリアフリー概念の発展形。デザイン対象を障がい者に限定せず、できるだけ多くの人々が利用可能であるようなデザインにすることを基本とする。

環境・エコ配慮に対する記述・・・JT開発地全体の基本コンセプト
蚕都（産業遺産）シネコン等、他機能の取り込みに対する考え方



委員からの意見

太陽光発電に注目する。（気象条件的にも適している）

委員からの意見

建物は、エコ的な配慮をしつつランニングコストが抑えられるものとする。

【市民意見】

- ・ 長野市や松本市に勝るとも劣らぬ交流・文化施設の建設を望む。（紙・パ）
- ・ 質の高い文化施設は絶対必要。市民に質の高い文化を提供する一流の施設に。（公・紙・出）
- ・ 現市民会館の利用状況から考え、身の丈にあった施設とすべき。（紙）
- ・ 「身の丈に合った施設」という意見もあるが、150億円ではホールと美術館の機能を持たせた大施設は不可能。理想は市外の人も行きたくなる様な、市の未来を拓く魅力的な文化施設。
- ・ 子どもや高齢者の利用に十分配慮すべき。（公2件、紙）
- ・ スロープの設置等、のバリアフリー化を徹底すべき。（公・紙・出2件・パ）
- ・ 買い物の帰りに立ち寄れるような、身近な施設とすべき。（紙2件）
- ・ 太陽光発電や雨水利用など、エコに配慮した施設とすべき。（紙3件）
- ・ 外観より機能を重視し、ランニングコストを抑える。（公・紙2件・パ）
- ・ 防犯カメラの設置や駐車場を明るくするなど、施設外のことにも留意を。（出）
- ・ 蚕都として、養蚕に関する資料や物品等を公開する博物館を設けるべき。（公・紙2件）
- ・ シネコン、公設の映画館も是非お願いしたい。（出）

2 多目的ホール

2 - 1 大ホール

市民の鑑賞の機会の拡充を図り、質の高い文化を享受・発信できる、東信濃地域全体の文化芸術活動の中心拠点としての施設とすることが望ましいと考えます。

一方、コスト面・運営面等を慎重に考慮すると、過大な規模のものにならないよう、長野・松本等のホールとの機能分担を図りながら、1,500席から1,700席程度の規模が適当と考えます。

利用形態は、公共ホールとして様々な利用要望に応えるために多目的ホールとし、市民ニーズ等を考慮し、音響性能をはじめ必要とされる性能・機能を満たしつつ、興行にも対応可能な施設とすべきです。また、客席は、ゆとりのある座席配置にするとともに、出演者と観客が一体感、親近感、臨場感を持てるよう配慮すべきでしょう。

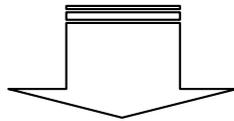
なお、多様な規模・内容の公演等に対応し稼働率も上がるよう、席数可変装置の導入については、費用対効果等を含め今後さらに検討が必要^{注)}と考えます。

舞台は現上田市民会館と同様の「プロセニアム形式^{注)}」とし、多目的な利用に対応するとともに、舞台裏も含めて必要な諸設備を整え、出演者が利用しやすい快適な諸室環境を確保すべきと考えます。

さらに、立地環境を活かし、人々に癒しや安らぎを感じていただくため、ホワイエなどは千曲川の景観・眺望に配慮した設計とすることが望ましいと考えます。

注)「プロセニアム形式」...舞台と客席がプロセニアム(額縁)によって明確に区分されている形式

大ホールの規模（座席数）
客席の形状・構造（扇形・馬蹄形・シューボックス、階数、バルコニー・・・）
機能・利用形態の確認（多目的ホールでよいか）
古典芸能への対応について（舞台設備、花道、せり）
席数可変装置の導入の有無



委員からの意見

座席数は1500席程度（1階1000～1100席、2階400～500席くらい）

- ・ 投資額、利用度及び管理運営コスト等総合的に判断して。

客席の形状は、現市民会館同様プロセニウム形式がよい。多目的ホールとする。

オーケストラピット設置。古典芸能に対応するため松羽目・竹羽目及び花道・せりの設備も必要。

席数可変装置は必要無い。

委員からの意見

1500席（1階1100席、2階400席）

古典芸能にも対応できるように花道、せりなども設置。

委員からの意見

席数は1500席でよい。

コンベンションや市民集会等での利用にも活用できる施設とする。

委員からの意見

親子で一緒に鑑賞できる鑑賞室の設置。

- ・ 小さな子ども連れでの音楽鑑賞などはこれまでは出来なかったが、親子で一緒に鑑賞できる「鑑賞室」を作ることによって、小さなうちから音楽などと出会うことが出来、『癒し』や『親子のふれあい』を深めることができる。

委員からの意見

1700席は望みたい。

機能的には、音響とともに、座席にも配慮する。

- ・ 長時間座っていても疲れにくく、ゆったりと演奏を楽しめるように

(2 - 1 大ホールのつづき)

【市民意見】

- ・ 上田は吹奏楽や合唱などが盛ん。財政面ばかりを気にして、学校の大会もできないような中途半端なものにならないように。(公)
- ・ 音響設備の充実を最大に考え、演奏しやすい舞台の設計を希望する。(パ・出)
- ・ 大ホールはオーケストラが演奏したくなるような1500席とすべき。(紙2件・パ・出)
- ・ 大ホールは、多くの利用を見込んで、1500よりは1700席に近づけるべき。(公)
- ・ 大ホールは1700席以上を望む。(紙)
- ・ 大ホールは一流の公演が呼べるよう、また人口規模から1800席以上。(紙・パ)
- ・ 大ホールは商業ベースで考えると、県民文化会館レベルの2000席が必要。(紙2件)
- ・ 現市民会館の利用状況を踏まえ、必要最小限の機能的な施設とすべき。(公・紙2件・パ)
- ・ 多目的ホールは便利なようだが、実際にはどの用途にも中途半端な無目的ホールとなってしまう。用途、目的を明確にした整備計画が必要。(公・出・パ)
- ・ 楽屋は大中小できるだけ多くし、動線や設備に十分配慮すべき。(パ6件)
- ・ 大道具等の搬入などのためにも、舞台周辺のスペースを十分に確保すべき。(パ3件)
- ・ 古典芸能の公演に配慮した舞台設備、所作台や花道、せり等を希望。(出4件・パ2件)
- ・ ホールは豪華でなく、何か県下でここにしかない設備を持たせるべき。(パ)

委員からの意見

席数は 1500~ 1550席

- ・ 市民要望は鑑賞する立場以上に、自分が参加し利用しやすいものを希望している。
- ・ また昨今の経済状況から、建設に対する不安もぬぐい去れない。

機能面の特徴として、大スクリーンを設置。

委員からの意見

座席数は、最低 1700 席としたい。

(現在、小中学生がホールを利用している音楽関係行事の実情と課題から)

- ・ 吹奏楽関連の主なホール行事

夏の吹奏楽コンクール東信地区大会 (A 大編成、 B 小編成)

冬のアンサンブルコンテスト東信地区大会

交歓演奏会(上小地区)

小学校管楽器交歓演奏会

高校東信音楽祭

- ・ については、 A (大編成) 東御市文化会館、 B (小編成) 佐久市コスモホールに分けてやってきたが、今年は A を丸子文化会館セレスホールで行った。 A は参加者も増えて、 2 日間に分けて開催しないといけない状況。
(A は 950 ~ 1100 人の生徒が参加 + 保護者、 B は 300 ~ 400 人)
(プログラム印刷総数 2500 部)
- ・ 参加する子供たちが他校の演奏を直接鑑賞できない。ホールの外でモニターテレビで間接的に鑑賞している。
- ・ ホール内は生徒だけでなく、保護者や家族の応援の皆さんで空席は皆無、ホール外にも人があふれ、安全上 (消防法) も危険な状況。
- ・ の参加者は上小各中学から集まり約 700 名。東御市で行ってきたが、保護者入場は不可にしている。
- ・ 、 についても二部制にして実施。子供たちが一堂に会してお互いに演奏を聴くことができない。一般入場も不可。
- ・ その他学校関係のホール行事
 - 上田市小学校連合音楽会
(児童数 1600 名、二部制・保護者入場不可で実施)
 - 合唱大会東信ブロック大会
(A 部門のみ二部制、児童数 950 名、保護者可)
 - 移動鑑賞音楽会
(中学校では、800 ~ 900 名の音楽会を開催)
 - 小・中・高 学校校内音楽会
- ・ は、本来一堂に会して開催したいが、キャパの問題でできないでいる。

2 - 2 小ホール

小ホールは、主に市民が日ごろ行っている様々な文化芸術活動を表現・発表する場として、気軽に利用できるような規模や機能に配慮した施設とすることが望ましいと考えます。

市民誰もが気軽に利用できる常に人々が集まるホールとすることで、豊かで潤いのある日常生活の実現とともに、中心市街地内の賑わいの創出に寄与する施設となります。

平土間の箱型形状とし、多様な利用が可能なマルチスペースとします。

客席数は、市民が気軽に利用できるかつ既存ホールは中規模なものが多いことなどから、200～300席程度の小規模なホールが望ましいと考えます。

【市民意見】

- ・ 小ホールも照明、音響、舞台装置、固定座席などを充実させてほしい。(公3件・紙4件・パ9件・出3件)

挙げられている理由

東信地域のシンボルとしてアピールでき上田市の売りにもなること

合唱団体等の様々な団体が望んでいること

市内の小ホールの稼働率が非常に高いため更に多くの利用が期待できること

市民の文化発表の機会が格段に増えること

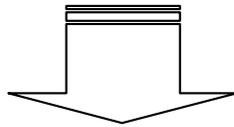
地域の文化育成につながる

次代の子ども達を育てる場となること

平土間形状は中途半端で使いにくく市内に同様のホールも多いこと

- ・ 小ホールは大賀ホールのような、親しみやすく、音響も素晴らしいホールにすべき。(出)
- ・ 小ホールの規模は250～300席のホールが市民は使いやすいと思う。(パ)
- ・ 小ホールは300～500席程度が利用しやすいと思う。(パ・紙)
- ・ 小ホールは500席程度を希望する。(出2件)
- ・ 500～1,000席程度の中規模ホールを望む。(パ4件、出3件)

小ホールの位置付け、機能・構造（市民意見を踏まえた再検討）
規模（座席数）



委員からの意見

座席数は固定席で 500 席が望ましい。

機能的には、大ホール同様の多目的ホールとし、設備等も同様。平土間形状は、中途半端で使いにくい。

委員からの意見

500席

大ホールに準じた機能・構造とする。

委員からの意見

固定席構造の小ホールとする。

- ・ 中間報告では平土間の多目的用途を想定していたが、固定席構造でホール機能も充実した小ホールを望む声が多数寄せられた。
- ・ 既存ホールを見ても、固定席を持ち音楽や演劇を中心としたステージ発表の使用に適う小ホールはない。信州国際音楽村のホールこだまに利用集中している。
- ・ 稼働率が高く、利用者が待ち望んでいる小ホールの意味は、大ホールとは別の意味で注目される。

委員からの意見

小ホールは、設備の整ったものに。

3 美術館

美術館として、「展示室」、「市民ギャラリー」、「アトリエ」、「収蔵庫」等を整備すべきと考えます。

「展示室」は上田ゆかりの芸術家を顕彰するなどの常設展示と、様々な内容を持った企画展示を想定、なお県展等の大規模展覧会への対応も踏まえ、展示室全体を一体利用できるよう配置等考慮します。

「市民ギャラリー」は市民誰もが気軽に日頃の活動の成果を発表できる場とし、「アトリエ」は市民誰もが文化芸術と触れ合い、地域の文化力の向上につながるさまざまなワークショップ^{注)}の場とします。

貴重な芸術作品を良質な状態で後世へと引き継ぎ、市民財産を保全していくため、適切な「収蔵庫」を整備して保管すべきであります。

注) ワークショップ...座学とは異なり、参加者による実習や体験を軸にした学習形式

【市民意見】

- ・ 先進的な美術館とすべき。(紙)
- ・ 子ども達が利用しやすいよう配慮し、明るく、光がたくさん差し込む美術館を望む。(紙)
- ・ 子どもでも生の作品の素晴らしさはわかる。子どもが行きたくなるような美術館にすべき。(公)
- ・ 美術館は地元出身の美術家がそれほどいないのには是非必要とは思わない。(紙)
- ・ 是非魅力のある美術館を。市民の公募作品を展示し、有名作家の企画展も行うべき。(紙)
- ・ 美術館は核となる世界的名画がなければ経営は難しく、ランニングコストを考えれば必要性を欠く。展示は創造館や空き店舗などを活用すべき。(紙)
- ・ 大規模な展覧会も可能なものにすべき。(公)
- ・ 世界的名画を購入、展示すべき。絵の選定は市民が行う。(公)
- ・ 美術館は展示作品が重要。美ヶ原高原美術館や他の美術館との連携も必要。(公)
- ・ 市民が公募展に出品し、それを鑑賞できる展示室を。(紙)
- ・ 豊かな心の育成をめざし、子ども達が創作体験できるワークスペースが必要。(紙)
- ・ 美術館には、水道設備を持った、汚れてもよい創作部屋が必要。(紙)
- ・ 山極勝三郎、赤松小三郎等、子ども達も容易に理解できる常設展示が必要。観光客にも見てもらえるように。(紙)



委員からの意見

常設展示室...「山本鼎館」「石井鶴三館」「ハリーKシゲタ館」及びそれに準ずる作家、市の所蔵品の展示を行う。これらの展示を通じて、その思想・精神や想いが現代につながっていくことを目指す。

企画展示室...企画展示においても、常設展示と関連した内容での展開が十分可能であり、島崎藤村、若山牧水、北原白秋等含め東信濃地域全体をフィールドにした展開を図っていく。

アトリエ...市民の創作活動の場としてのアトリエの機能は極めて重要である。このアトリエの活用においても、石井鶴三や山本鼎などから地域に受け継がれてきている流れを活かし、新たな展開を図るべきと考える。

美術館における具体的機能として「子供のアトリエ美術館」というものを提案したい。

- ・市内のすべての未就学児がここへ来て芸術と触れ合いながら一日楽しく過ごし、ここで生まれた作品を展示して、一般の人々にも見ていただく。

事業としては、「日本における近代美術教育の聖地 信州上田」にふさわしい活動を展開する。

委員からの意見

「展示室」、「市民ギャラリー」、「アトリエ」、「収蔵庫」の区分が適切かどうか。市民の発表の場と作家の作品発表の場は、別に考えるべきではないか。

- ・「市民ギャラリー」は、隣接のアリオに設置した方が、来場者を増やせる可能性が高い。

「企画展示」は、常に変化させることでリピーターを増やすために重要であり、スタッフの企画力が求められる。

「石井鶴三」「山本鼎」等、既存の施設にあるものを別々に展示すると、それだけでかなりの規模になる。常設展示は絞り、企画展で変化を持たせる必要があると思う。

委員からの意見

子どもと障がいを持つ人を中心に、すべての人が創作・体験・発表できる部屋・企画を前面に出すことで特色を出す。

中庭、もしくは屋根つきの屋外空間の整備

- ・創作体験も可能。(設備費が低コストで済む) 交流ひろばとの関連を持たすこともできる。

市民には、世界的名画の購入を望む声もあるが、上田には不要だと思う。

4 交流施設

交流機能の施設として、「交流・会議室」、「リハーサル室」、「練習室」、「ボランティアルーム」、「エントランス」等を整備すべきと考えます。

「リハーサル室」、「練習室」等は、ホールの付帯施設としての側面もありますが、市民の主体的な文化芸術活動を支える拠点ともなります。

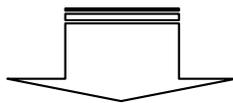
「交流・会議室」は、文化活動に限らず広く市民が自由に利用できる多目的なスペースとし、「ボランティアルーム」は、市民とともに歩み・育てる拠点として必要と考えます。

また、子育て中の保護者が、安心して鑑賞できる機会をふやすためのサポート施設（キッズルーム）を、管理部門に設置します。

明るく開放的な「エントランス」ホールを設け、訪れた人々がゆったりとした憩いのひと時を過ごせるよう配慮するとともに、市民緑地・広場などとも連携した交流と賑わいの空間として整備すべきと考えます。

なお、喫茶・売店等、つまり文化施設におけるミュージアムショップやレストラン・カフェは、単なる商業系施設ではなく、交流・文化施設の一端を担う機能、また教育的機能としての一面も持つ施設といえます。したがってこれらの設置については、市民・利用者のニーズや採算面等の他に、こうした機能面でのあり方、位置付け等も踏まえ、さらに検討する必要があると考えます。

小ホールのあり方を踏まえた、規模・機能等の再確認
喫茶・売店等機能の設置について



委員からの意見

和室2間続きで、(茶事で使用できる)水屋を設ける。伝統茶道のほかに会議・交流等多目的に利用できる部屋とする。

喫茶・売店・軽飲食等も必要である。

委員からの意見

伝統文化、会議、交流等多目的に使える和室の設置。

2間続き+水屋・床の間、蛭釘・花釘等設備にも配慮。

委員からの意見

エントランスホールは、広々していて感動があることが大切となる。

会議室等は、美術品の展示ができる使用にするとともに、実用本位の“冷たい”会議室ではなく、施設全体に“芸術的な雰囲気溢れる”ような会議室とする。

ミュージアムショップ・カフェレストランは必ず必要。

委員からの意見

中高生から一般まで利用できる軽音楽練習室を設ける。

エントランスにアトライブラリー(アート雑誌閲覧)、情報ラウンジ(各種企画展の情報)等、コーナー的な空間を設け、それぞれの施設に誘導する。

【市民意見】

- ・ 茶道用の和室の設置を希望する。(出2件)
- ・ 軽音楽の練習場所を。(出)
- ・ リハーサル室、練習室は必ず設置して欲しい。(パ)
- ・ 大・中・小の会議室が必要。(パ)
- ・ 小ホールを機能や特徴を持たせたものとし、多目的な機能が交流・文化施設に必要ななら、展示室やホワイエを柔軟に利用するよう考えればよい。(パ)

5 市民緑地・広場

ホール、美術館等の建物の周りには、交流・文化施設全体の連続性や環境・景観に配慮した人々の"癒し"につながる「芝生広場」と、人々の"賑わい"につながる「交流広場」を中心に、市民緑地・広場を整備すべきと考えます。

「芝生広場」は 8000 m²程度の広さを持つ開放的な空間とし、「交流広場」は、JT 開発地に集う人々が、賑わいと活力を生み出し、中心市街地全体へと回遊・連携させていくための空間としての整備が望ましいと考えます。

さらに、親水的な空間、子どもが遊べる空間、美術作品の展示も含めた芸術空間等の整備については今後検討する必要があります。

また、上田城や千曲川との連続性を意識し千曲川堤防沿いには桜並木の整備が考えられます。

委員からの意見

市民憩いの広場として親水的な空間、子どもが遊べる空間が必要。
美術作品の展示の設置が望ましい。

委員からの意見

きれいに手入れされた明るい庭と自然そのままのような庭をバランスよく配置する。
広場の南側には親水空間を整備する。
広場全体はなだらかな起伏を持たせて、花壇・ベンチ・野外彫刻・並木等を配置し、
子供からお年寄りまで、歩いて眺めて楽しめるようにする。
交流・文化施設全体が緑の中にあるようなイメージとする。

委員からの意見

夏場は子どもが水遊びを出来るような「親水空間」の整備。
・ 暑い夏場の屋外は、子ども連れは出掛けにくい水遊びが出来ることが、子ども
連れの家族にも出掛けてもらえる場所になり、賑わいと活力を生み出す。
子ども広場のトイレを設置する時は、上田城跡公園の子どものトイレを参考にする。
男性トイレにも小児用のトイレとオムツ替えシートを設置する。(ホール施設内のト
イレも含めて)

【市民意見】

- ・ 桜や欒などを植えた公園を。ここに暮らす人が楽しめることを考えてほしい。(出)
- ・ 真田氏の野外彫刻などを展示すべき。(公)
- ・ 郷土作家作品の屋外展示も検討が必要。(パ)

6 施設全体のイメージ

(1) 施設構成・規模等

交流・文化施設全体の構成と規模などをまとめると、表1のとおりとなります。

表1【施設の構成と規模など】

建物	敷地面積 約 15,000m ² 延床面積 約 16,000m ²	
多目的ホール	・大ホール(1,500~1,700席) ・小ホール(200~300席) ・スタッフルーム、楽屋(大中小) ・ピアノ庫、倉庫等 ・ホワイエ、クローク、ロビー等	約 8,500m ²
美術館	・展示室(常設展示・企画展示) ・市民ギャラリー ・アトリエ ・収蔵庫、管理研究関係室	約 2,500m ²
交流施設	・リハーサル室、練習室 ・交流室、会議室 ・ボランティアルーム ・共通エントランス	約 2,000m ²
管理部門	・託児サポート施設 ・事務室、総合案内、救護室等 ・廊下、階段、機械室等	約 3,000m ²
市民緑地・広場	・芝生広場、交流広場 ・桜並木、親水空間、遊具等	約 18,000m ²
駐車場()	・普通車約 400台 ・大型車(必要台数分)	約 12,000m ²
公共利用全体	全体敷地面積 約 45,000m ²	

駐車場の整備についての留意点は以下のとおりと考えます。

交流・文化施設利用者用の駐車場としての規模

最大利用を1,600人と想定し、うち5割が車を利用し、一台あたり2名乗車で来館すると、 $[1,600 \times 0.5 \div 2 = 400]$ 400台程度は必要となります。

上田城跡公園等への観光客用駐車場

上田城跡公園から至近距離に位置することも踏まえ、公園下既存駐車場等との機能分担・位置付けを検討すべきと考えます。

市街地回遊の拠点となるパーク&ライド用駐車場

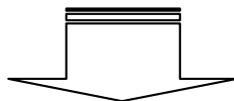
コンパクトシティの実現、環境にやさしいまちづくり等長期的な視野に立った中心市街地のあり方の中で検討する必要があります。

機能面・景観面等に配慮した配置計画

各施設へのアクセス、周辺環境との調和や景観面への配慮等から、位置・形状・また構造等について検討していく必要があります。

施設想定面積の精査

留意点及び市民意見を踏まえた、駐車場必要台数の再検討



委員からの意見

駐車場・駐輪場の充実

委員からの意見

千本桜まつり等、中心市街地全体での活用も想定し、相当な規模の確保は必要。
コンベンション利用を想定し、大型バス駐車にも配慮が必要。
有効に活用するためには、低価格の有料とすることも検討すべき。

委員からの意見

駐車場 400台では少なすぎる。地下を利用して緑地を増やす。

【市民意見】

- ・ 既存施設の利用を検討しながら適切な規模とすべき。(紙)
- ・ 駐車場 400台は催しが重なったとき足りない。(公・紙)
- ・ 駐車場は最低でもキャパシティの半分は必要。複合施設なのでそれ以上必要。(紙)
- ・ 地下は駐車場にすべき。(紙)

(2) 施設配置イメージ

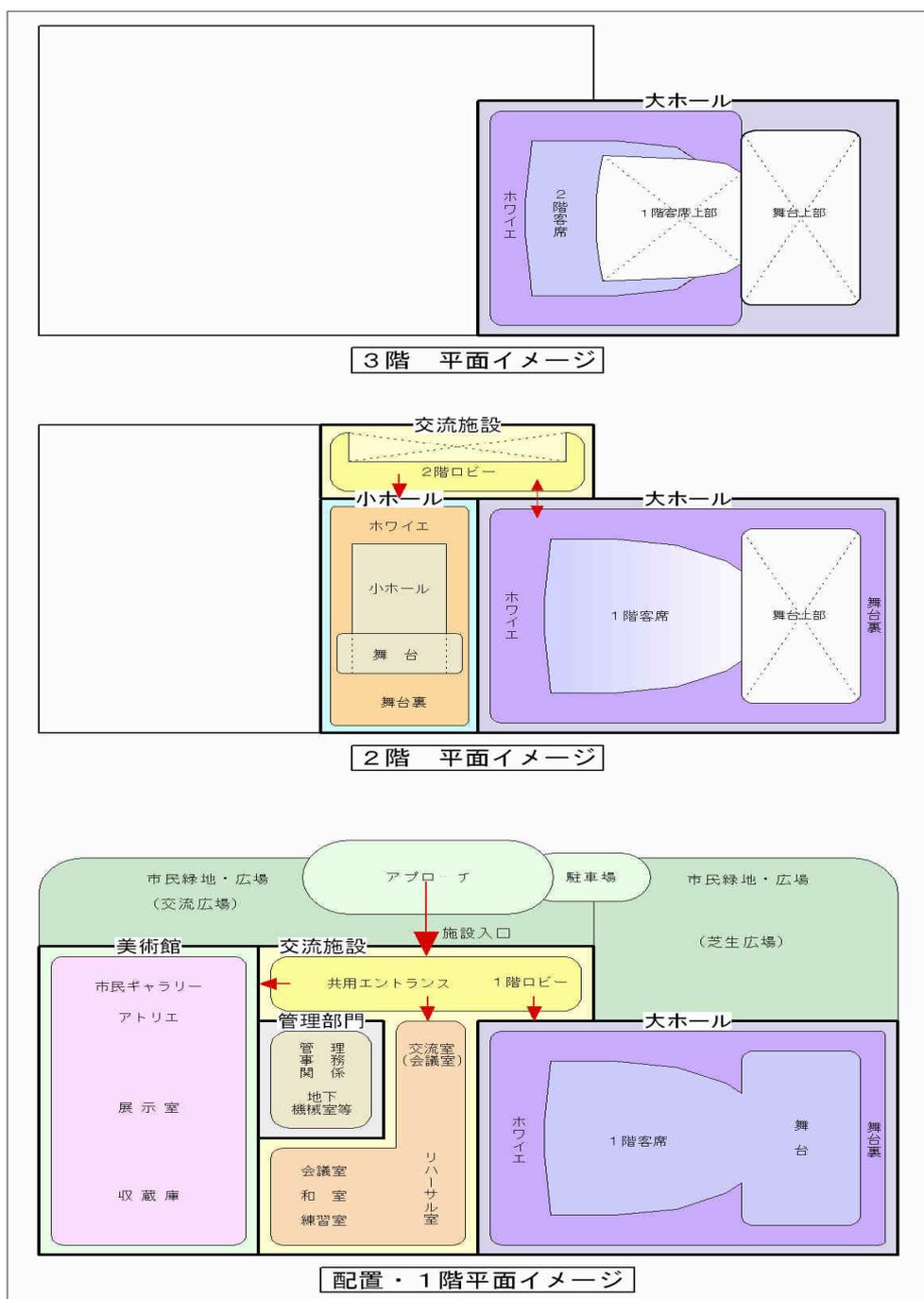
図2は各施設のつながりのイメージを表現した一例です。

なお整備予定地（J T開発地）の概要については、[付属資料](#)に掲載してあります。

施設配置の基本的な考え方は以下のとおりです。

共用・集約化により全体面積の圧縮に努め建設費・維持管理費の節減を図る。
各施設は共用エントランスを中心に配置し全体の一体感と利便性に配慮する。
各施設の運営・管理上の独立性は確保した配置とする。

図2 【施設配置イメージ（例）】



美術館の配置（合築・別棟）
施設全体の配置イメージ（モデルプラン）の検討



委員からの意見

エントランスホールは建物の東側から南側まで配置し、千曲川や周辺の山々などの景観が楽しめるよう工夫する。

- ・ 特に南側には千曲川の流れを眺められるベランダを配置する。

建物はできるだけ西側に寄せ、正面を東側とし、東側は既存の樹木を生かした緑地・広場とすべき。

美術館の配置については合築でよい。

緑地・広場をできるだけ広くとるため、建物の1階を駐車場としてもよいのではないか。

委員からの意見

駐車場との関連で考えると、屋根つき駐車場の上を展望広場とするなど、土地の有効活用を検討すべき。（横浜大さん橋屋上展望デッキ「くじらの背中」が参考になる）堤防より高くして、千曲川を眺められる憩いのスポットとする。

委員からの意見

美術館は1階2階を使うようにする。

- ・ 常設展示と企画展示を分けることによって特色ある展示ができる。
- ・ 企画展示の搬入搬出作業が参観者の邪魔にならない。
- ・ 階を分けることで参観者に心のゆとりを持たせることができる（2階からの眺望）
- ・ 2階に美術館があることで、共通部分への拡張が可能となる。小ホールや会議室は大規模展示に対応可能としておく。
- ・ 外観上のバランスが取りやすくなる。

駐車場から玄関までのアプローチには特に配慮する。

【市民意見】

- ・ 景観的にホールと美術館は独立させるべき。美術館には印象に残る美しさが必要。建物と屋外彫刻などが一体となり、子ども達の印象に残るものとすべき。（公）
- ・ 美術館は別館としてほしい。（出）

運営・管理の方向性

1 エリア・マネジメント

運営・管理の前提は、「理念と目標」で掲げた内容を、交流・文化施設全体を通じていかに実現していくかにあります。施設にはホール・美術館・交流施設・広場等それぞれの目的・機能がありますが、全体を一体のものとして捉え、連携させた配置・機能を持たせることにより、最大化、効率化、そして市民への説明責任を果たせる運営・管理をすべきであります。

また、こうした運営・管理により、所期の目的を実現するだけでなく、全国に向けても施設の存在自体を発信できることにもつながると考えます。

さらには、住宅地区、商業地区等施設周辺との連携、そして中心市街地全体も含めた広い視野に立ち、人の流れ、まちのつながりを総合的に考慮していく必要があります。それによって、人や賑わいをこの地域内だけに留まらず、中心市街地全体、そして上田市全体の活力をもたらすことにつなげていく可能性を引き出すことが出来るように考えられます。

このためには、地区全体を過去の維持運営の方式に縛られるのではなく、事業者、施設管理者、行政、市民、NPO法人などが共同して、施設や建物の管理だけではなく、イベントの企画などにより街の賑わいを演出していくような、エリア・マネジメントの手法をとりいれて、積極的に活力を持続させていかなければならないと考えます。

J T 開発地全体の中での位置付け、連携・回遊策の方向性検討
中心市街地全体の中での位置付け、連携・回遊策の方向性検討



委員からの意見

高齢者や子供たちが訪れやすいアクセス手段の確保

委員からの意見

美術館とホールが連携した事業など、全国にアピールする特徴を持たせる。(例えば武満徹氏など)

中心市街地の対極となるあたりに人が集まる施設を造り、市街地内に人の流れが生まれるようにすべき。

委員からの意見

既存の中心市街地から歩行者及び自転車によるアクセスが提案されていない。旧リヴィン前や天神通りからの歩行者や自転車を想定すると、ガード下が危険箇所として大きな課題になる。

新幹線高架下、ガード上に遊歩道を整備するなど、JT 跡地全体構想の中で対策を講じる必要がある。

【市民意見】

- ・ 商業と文化のまとめり、中心市街地の活性化につながる開発を期待している。(出)
- ・ 中心市街地(商店街)との交流が重要。
- ・ 上田城公園から J T 開発地への歩道が必要。それぞれの点と点を結ぶような、全体を見据えた計画とすべき。(公)
- ・ 上田駅から文化施設への直接アクセスが必要。(公2件)
- ・ 中心市街地活性化のため、また子どもや高齢者の利用のため、例えばイオンの循環バスのような案も必要。(公)シャトルバスを用いてほしい。(出)
- ・ 新施設と市街地の施設・観光名所を結ぶ、「ポストンフリーダムトレイル」のような観光ループ舗道を真田紐のデザインで整備することを提案する。
- ・ 上田駅と J T 開発地を「地下商店街」「専用モノレール」「ムービングウォーク」などで結ぶことや、「新駅」設置等の検討を提案する。(パ)
- ・ 上田駅は新幹線利用のツアーのバス乗換地として有利なため、観光バスターミナルを併設すべき。(パ)

2 施設の運営・管理

(1) 運営のマネジメント能力

施設整備後の運営にあたっては、施設整備段階から市民とともに施設を創り、育てていく新たなしくみづくりを構築するべきです。早い段階から、舞台芸術に関する高度な専門性を備えた人材を確保するなどの新たな運営体制づくりを検討・準備していく必要があります。

これらを通じて、公共建造物ではあっても官の運営・管理にするのではなく、民間の活力を導入して、効率性と魅力を高める必要があると考えます。

(2) 手法の検討

「指定管理者制度」など、様々な民間活力の方策の導入を図って民営化を進めていく必要があります。

(3) 運営・管理の財源確保・資金調達にあたって

運営財源の確保等財政運営的な面からは、次の点に留意すべきと考えます。

市民の理解に基づく行政の長期的な事業運営経費、維持補修経費の確保

企業メセナ^{注)}の活用

適切かつ公平な利用料金、減免基準の設定

効率的かつ効果的な自主事業の実施と市民活動への助成・支援

特徴ある施設づくりと運営手法

注) 企業メセナ...企業が資金等を提供して文化、芸術活動を支援すること。企業財団を通じた助成や、企業が主催するコンサート等各種の公演・イベントを含める場合もある。

(4) 運営・管理経費について

施設整備にあたっては、上田市にとって真に必要な施設の規模や機能のほかに、運営・管理のあり方、財政面での見通しなども重要な判断要素となってまいります。

もちろん、文化の振興、そして人を、まちを育てていくことは単なるお金の問題ではありませんが、市民全体で認識を共有し、この施設が将来にわたりその機能を維持し、冒頭に掲げた基本理念・目標を実現していくためには、適切な運営と管理のための経費をきちんと見定めながら、計画を進めていく必要があります。

しかし、こうした経費は、事業内容、建物の構造・規模・舞台装置等設備関係の状況により大きく変わってしまうことから、現時点では具体的数字はつかめません。

そこで、当面はこれまで調査した他施設の例(表2参照)をもとに維持管理費及び人件費について平均値を算出し目安とすることとします。具体的には維持管理費のみで年間15,000円/m²程度、人件費を含めると22,000円/m²程度と見込まれます。

また、施設の大規模改修、舞台・音響等設備関係の更新費用も将来的に必要となりますので、こうした面への財政負担等も考慮した準備が必要です。

表2【他施設における管理経費の事例】

(表は割愛しました)

市民意見を踏まえた、運営・管理の方向性についての再検討
運営・管理経費、大規模修繕費等の見込みの精査



委員からの意見

3年程度の市直営による実績をベースとして、問題点等も判断し、指定管理者に移行することが望ましい。

委員からの意見

研究機関としても位置付け。研究室を設置する。

- ・ 芸術による教育を通して、人間形成に及ぼす影響や、人間性、創造性を探求する。
- ・ 学芸員を中核とした研究メンバーを配置。
- ・ 各大学や美術館等と連携・協力する。
- ・ 「芸術教育のまち 上田」として、人間性・創造性豊かな芸術文化の薫り高い都市づくりを進めていく。

市民がボランティアとして施設の運営・管理に積極的に参加する仕組みづくりが大切。

委員からの意見

早期に人材確保・育成にあたる。

委員からの意見

美術館関係の学芸員の配置はできるだけ早くして、開館時の企画や数年先までの展示計画を立てていく必要がある。

【市民意見】

- ・ 企画力の優れた文化的素養を持った人材を確保すべき。(紙)
- ・ 施設の設計から運営まで、やる気、企画力、専門性のある若者を公募すべき。(紙)
- ・ 施設では、市民有志、ボランティア、NPO等が参加できる仕組みを構築すべき。(公3件)
- ・ 学芸員は初めから参加させ専門職として配置すべき。(公)
- ・ 外国人の方の力も活用すべき。(出)
- ・ 教育面・福祉面にも広がる理念を軌道に乗せるため、高齢者の力・財力を活用すべき。(パ)
- ・ 会場費は、文化団体の定期演奏会などの場合は減免すべき。(出) 立派な施設であっても利用がなければ意味がない。文化団体への利用料金面での配慮を。(出)
- ・ 新ホールにおいても市内小中学校の使用料は100%減免すべき。(紙)
- ・ 市民が文化活動で利用する際、誰でも無理のない使用料で使えるよう配慮して欲しい。(パ)
- ・ 文化協会加入団体の使用料無料はおかしい。利用していない人に負担をかけている。有料にすれば意識も変わる。(紙) 受益者負担を徹底すべき。(紙)
- ・ 建物だけでなく、市民が利用しやすい仕組み作りが必要。(紙)
- ・ 従来の箱物行政と同じくしないために、建設後の財政見通しの確実性と、その数字を提示することが重要。(パ)

建設にあたって

1 他施設との役割分担

上田市にはすでに様々なホールがあり、多くが多目的ですが、概ね次のような役割分担が可能と思われます。

- ・ J T 開発地の交流・文化施設...長野市以東(東信濃地域)の広域的な拠点施設
- ・ 上田文化会館...千曲川右岸地域の創作・発表の拠点
- ・ 丸子文化会館...千曲川左岸地域の創作・発表の拠点
- ・ 上田創造館...上田広域の学習・発表の拠点
- ・ 信州国際音楽村...音楽系を中心とした施設
- ・ 各公民館等の生涯学習施設...市民の日常文化芸術活動に密着した施設

2 建設スケジュール

建設スケジュールとしては、市での基本計画策定後、基本設計及び実施設計として1年～1年6か月、建設工事として2年～2年6か月、竣工から開館までの準備期間として3か月～6か月程度要するものと推定されます。

したがって、21年秋季に基本計画が策定された場合、開館は平成25年度末頃と想定できますので、遺漏のないよう、計画的、段階的に準備を進めるべきであります。

- 1 2 -

3 整備事業費と財源

整備事業費については、当初市から上限として示されたのは150億円でしたが、今日の経済情勢や市の財政事情を踏まえ、市民の理解に基づく適切な事業費とすることが重要と考えられます。

今回の中間報告にあたっては、常に整備事業費の圧縮も念頭に置きながら、必要な機能や規模等について検討・議論を行ってきました。

今後は、さらに一般市民の意見もお聞きして検討を重ね、最終報告をまとめていくこととなりますが、市側においても、公費の負担軽減に努めるべきであります。国のまちづくり交付金や合併特例債を最大限活用し、財政状況に配慮した整備を進められたい。

既存施設との役割分担・連携策等の明確化



【市民意見】

- ・ 市内他施設との役割分担が分かりにくい。(紙)
- ・ 市内既存施設との役割分担が今後の課題。(紙2件)
- ・ 他施設との役割分担について、中央公民館との役割重複が懸念される。(パ)

施設全体の配置イメージ(モデルプラン)に基づく、整備事業費と財源の精査



委員からの意見

予算限度額 150 億円以内に圧縮することは、当然留意すべき重要な課題であるが、将来 50 年先以上使用する文化施設として近代的な施設でなければならない。建物外観も上田のシンボルとして、上田の歴史、文化等をイメージした施設になる工夫も必要であり、無理して予算を圧縮し、中途半端な施設にならないよう有効・効果的な予算配分を願う。

【市民意見】

- ・ 大規模な寄付制度により、市民がタッチできる施設整備を。(紙)
- ・ 東信濃地域も含めた内容であれば、東信の市や県から補助してもらいたい。(公)
- ・ 総事業費は 100 億以下にすべき。(紙)
- ・ 子どもの将来に重荷とならない程度の規模とすべき。(紙)
- ・ 市民参画の意味からも、市民からの寄付を募ることが重要。(パ)